



そしたら、そんなのは
言い訳にはなりませんよ、
なんて言ってくるのよ、おおばーば。
で、なぜかここに連れてこられたの。
意味がわからない。

国技館の中では、大きな体をした力士さんが
土俵の上で相撲をとっているわ。
あら、あのきらびやかな衣装を着て
土俵にいる人は誰かしら?
「パリオウちゃん、あれは、行司さんよ。」
どっちの力士が勝ったのかを、
華麗にさばく人なのよ」

土俵の上を軽やかに動きまわって、
「こった、こった、
よーい、
はっけよーい!」と、
合の手のように声を出して
勝負をさばく人が
行司さん、なんだって。
でも、実際に相撲をとるに
勝敗だけを指し示す
お仕事なんて、気軽なものね。

「パリオウちゃん、
きつて行司さんのお仕事をたて
案外だ、なんて思っているのよ。」
「うそよ、わたしは心を
読みかしたのよ。おおばーばは
アキマツの「おまじょまじょ」を
まあ、
おおばーばの説明をききまじやう。

なるほどね、行司さんは土俵の上で
なまきをすらすらとこなすのよ。
他にもいろいろなお仕事があるみたいだね。
館内放送をしたり、
電光掲示板に力士の名前を書いたり。
でも、みんな、見て見てー!
おおばーばの見せてくれた
「番」のものをただで、
ほら、このパリオウちゃん、
これも行司さんが書いちゃったって言うのよ。
すくなくらい。

わたしはパリオウ、まじょまじょよー!
今日はね、日本とらう国の「大相撲」というのを
見学し、おおばーばと一緒「
「国技館」というところに来たの!
おおばーばがわたしの書く字が汚いのを、
やれやれって感じの目で見てきたから、
「いじやな、わたしはまじょまじょを
まじょまじょを抜け出すために
修行中なんだから!」って反論したの。

「でせ、おおばーば、
あの人たちは字が上手だから
行司になったんじゃないかって、
行司になったから
字がうまくなった、って、
それは思わないかしら!」
おおばーばは、
「そんなことばかり言って、
少しは魔法が上達したの?」って顔してる。
もう、少しは成長したんだからね!
えいっ!
ほーら、へいさんに、
かわいらしい行司の
衣装を着せてあげられたでしょ!

★★★★★
もん だい
問題
Q おおばーばの

つちで盛られた土俵の体積が何m³くらいかを
考えてみましょう。ここでは、簡単に、土俵は
右の図のような、東西南北どこから見ても同
じに見えるような立体で、上面と底面はそれ
ぞれ一辺の長さが6(m)と7(m)の正方形、
高さは50(cm)と考えることにしましょう。
四角すいの体積は、(底面積)×(高さ)÷3で
計算できることを用いてかまいません。

番付というのは、
力士の成績表みたいなもので、
強い力士は大きな字で、
格下の力士になればなるほど
小さい字で、表に
名前が書かれるみたい。
一番下の格付けの力士は「序の口」って、
本場に豆粒みたいな字で
名前が書かれているのよ!
あー、なるほど。行司さんだって、
字の練習をするんだから、わたしもそれくらい
魂胆なのね、おおばーばは。
困ったわね。なんて反論しまじやう。

もん だい
かい どう
問題の解答
A

ふちの辺をのばして、二つの四角すいを作りましょう。
高さが50(cm) 変わると、正方形の辺の長さが1(m) 小さくなるので、
できあがる四角すいの高さは、50×7=350(cm)、つまり3.5(m)と、
50×6=300(cm)、つまり3(m)です。
よって、二つの四角すいの体積は、それぞれ
7×7×3.5÷3=57 $\frac{1}{6}$ (m³)と6×6×3÷3=36(m³)
と分かるので、差にあたる「土俵の体積」は
57 $\frac{1}{6}$ —36=21 $\frac{1}{6}$ (m³)と分かります。



じんぶつしょうかい
人物紹介

未熟な魔女「まじょまじょ」を卒業するために
日々奮闘中の、どこかおっ
ちょこよいな魔女。目の
前のものをかわいいへび
に変えるのが特技。

手厳しさもあればおおら
かでやさしいところもあ
る。なぜかパリオウちゃん
と気の合う「偉い魔女」。保
護者役も兼ねる。

パリオウちゃん
おおばーば
(本名はセッコ)